

八
卷
抄

三

公署抄本

校

王蒙

辰辰

馬

史

仁

修

謝

車

秋

年

...

...

...

...

...

...

八雲抄第三上甲

枝葉部

天象九段三書

辰辰

鳥世ノトナリ

矣

衣食

後紀

阿波國文庫

不悉文庫



河象

車

獸

人倫

雜物

池儀

木

史

人事

及名

天象記

○世二十日 天堅世

天。わま 元さうこま 〇さくかー 河津川がう

河津川がう 元さうこま 〇さくかー 河津川がう

河津川がう 元さうこま 〇さくかー 河津川がう

河津川がう 元さうこま 〇さくかー 河津川がう

河津川がう 元さうこま 〇さくかー 河津川がう

河津川がう 元さうこま 〇さくかー 河津川がう

河津川がう 元さうこま 〇さくかー 河津川がう

河津川がう 元さうこま 〇さくかー 河津川がう

河津川がう 元さうこま 〇さくかー 河津川がう

河津川がう 元さうこま 〇さくかー 河津川がう

是もやあつらふやあつらふよはなむくよしあり

天の原らあつらふよはなむくよしあり

流しつらあつらふよはなむくよしあり

眼やこの流

日 河まひの

うらひさきとけりたり

善日とていり

他朝日とていり

あさ日 月 日

月 物をははらふ

人死すまよあり

月人おとこ

月おとこ

月おとこ

月おとこ

月おとこ

月おとこ

月おとこ

月おとこ

月おとこ

月おとこ

月おとこ

首七尋口亮明

万子らわりの

日とよあり

ふきつら

是の事はつらや

奇日とていり

日

あつらふ

あつらふ

あつらふ

あつらふ

あつらふ

あつらふ

あつらふ

あつらふ

あつらふ

あつらふ

あつらふ

あつらふ

あつらふ

あつらふ

わあ〜いなるひさ

日方ひさ〜後抄抄異風也たまひ
あら風のやまやまぬあり

をまはら

海群のつわ
わあ
あの方のつまひり是は抄抄
中も時他方一是は抄抄初也

いりか あら〜 せき 山に流

河柳方〜
わんりた
うらうら

照ら ぶら〜
まはら

あふらあ ぶら〜
後抄 わ〜

いりぬ わら〜
せ風 うら

已上三六
やま海群
風〜
あら〜
映〜

流ら〜
移ら〜
よ風〜
せ〜
や〜
あ〜

家小〜
あ〜
あ〜
あ〜

あ〜
あ〜
あ〜
あ〜

但〜
あ〜
あ〜
あ〜

正〜
あ〜
あ〜
あ〜

あ〜
あ〜
あ〜
あ〜

あ〜
あ〜
あ〜
あ〜

あ〜
あ〜
あ〜
あ〜

あ〜
あ〜
あ〜
あ〜

あ〜
あ〜
あ〜
あ〜

あ〜
あ〜
あ〜
あ〜

あ〜
あ〜
あ〜
あ〜

一切乃れわつしらすと八重あはむいひかかひのこふ
 山 かしここころ 菊たかくなまもふあ
 夕のまふりしむむつらや 秋ふは朝ふつらつ夕は
 秋にいりあへりわさあふもとも云とよふい
 昔ころあふうとつに似くわつ死々乃れむこあり 今
 乃れこころ 日向や月 ぬおや 一はましつら云 屋のむい
 昔ころのころ

歳。わさこ ゆふ うちと 春 八へ
八重を流ハ只流し必非ハ
 全一切物を重多服を

号ハ冬を流ハふもわ流し筆流すも 秋之まあり 可よか乃
以乃ハ八十一の貞流すこ

うあさらりわひいなり 夜もい流しも風流りかな
 湖よもしくしと緩成いなり 七夕をも流しつら

よあり 歳乃れ流もるわ又也 一 病よもわあり

又可よ 歳あふる 入歳あふりも ありあへりまあり

といり ろせ 志まよの 書 ろせ 可よあめまの 流るいし流

そまひく 歳うらふあひのゆり 言陽流る命も

能程あし流流も最とら也 ことあらしん死公流

ありと緩成いなり こと通も一と之をもあしくは

そららりのとわゆるえまら

芳 わて 又 うと 秋 わま 川 山 海なる

可よわつしとあり 秋のゆき 流る 可よゆらる

よそららるわつしととと 後撰お秋のり

あつらふま ろせ 夕のまのまあり 天のり 可よゆらる

八重を流

二

勢たせよすこるるうくひととふゆのまほせ方の
らふゆふらたらしく 万よまひくこゝあり勢たせ

痛いたみや何故なの海へ 一 又またおの勢せうとせり

いくさうせのさききも勢せう 又また勢せうと万葉 秋あきよりよゆりと

秋あきよりよぬきし一 秋あきとけいさうしとちふふわりみ

露つゆ 胡こゆしううしうし ちちしし ちちののゆゆとと

わらわりりよよささゆゆををよよせせううくくははめめししるるよよあ

りり後あ撥はみみゆゆへへ乃の秋あととみみくく月つきととあありり勢せう乃の

ふふささりりははののししももささししははいいししるるやや

ひひののびびいいちちささああいいななららととああららははららととああららとと

ははげげよよななららいいめめいいららりり 勢せうああららりりととああららとと

いいららりり 万ま勢せうああ 後あよりりささららりり 万ま勢せういいららりり

友とも始は乃の物ものだらりり 萬ま勢せういいららりり

勢せういいららりり 物ものタタ 万ま勢せういいららりり 万ま勢せう

万ま勢せうああららりりととああららりりととああららりりととああららりりとと

ららととああららりりととああららりりととああららりりととああららりりとと

ととああららりりととああららりりととああららりりととああららりりとと

かかぬぬののああららりりととああららりりととああららりりととああららりりとと

ああららりりととああららりりととああららりりととああららりりととああららりりとと

ととああららりりととああららりりととああららりりととああららりりとと

ああららりりととああららりりととああららりりととああららりりととああららりりとと

ああららりりととああららりりととああららりりととああららりりととああららりりとと

ああららりりととああららりりととああららりりととああららりりととああららりりとと

...
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...

海潮曰...
...
...

時表録

去る...
...
...

夏...
...
...

秋...
...
...

冬...
...
...

乃...
...
...

始...
...
...

年...
...
...

可...
...
...

也...
...
...

子...
...
...

八...
...
...

三...
...
...

う...
...
...

月...
...
...

日...
...
...

日...
...
...

雲 志乃くめ 後君と 山くはら 曉天聖 わり河を

わ架くらま 可也 曉ぞし方よわ 可也 死 吉世り といり

そらま 意昔 くる 意昔 曉り 意昔 可河 意昔 とい 意昔 あり 意昔

あ 意昔 ころ 意昔 あり 意昔 け 意昔 あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔

あり 意昔 祢 意昔 あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔

楯目とく あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔

あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔

あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔

あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔

朔 意昔 あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔

あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔

あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔

あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔

あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔

あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔

あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔

あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔

あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔

あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔

あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔

あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔

あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔

あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔 あり 意昔

はくよ ^{たの} 予日入枝わつ死雲のさつふ似也 ^{たの} 志

早 ^{せう} 津 ^つ 煙 ^{えん} さらん 河敷 ^{がしき} る死 ^し 志 ^し

浪 ^{なみ} 河 ^が 江 ^え 蔭 ^{かげ} 千鳥 ^{ちどり} かり ^{かり} 志 ^し

あり ^{あり} ころ ^{ころ} ち ^ち 山 ^{やま} くら ^{くら} 志 ^し

お ^お 心 ^{こころ} さま ^{さま} さま ^{さま} ひ ^ひ こと ^{こと} 志 ^し

ら ^ら よ ^よ ぬ ^ぬ も ^も き ^き 海 ^{うみ} 一 ^一 志 ^し 志 ^し 志 ^し

さ ^さ い ^い り ^り 又 ^{また} 志 ^し 志 ^し 志 ^し 志 ^し 志 ^し

又 ^{また} 志 ^し 志 ^し 志 ^し 志 ^し 志 ^し 志 ^し

志 ^し 志 ^し 志 ^し 志 ^し 志 ^し 志 ^し

さ ^さ よ ^よ 志 ^し 志 ^し 志 ^し 志 ^し 志 ^し 志 ^し

志 ^し 志 ^し 志 ^し 志 ^し 志 ^し 志 ^し

志 ^し 志 ^し 志 ^し 志 ^し 志 ^し 志 ^し

志 ^し 志 ^し 志 ^し 志 ^し 志 ^し 志 ^し

志 ^し 志 ^し 志 ^し 志 ^し 志 ^し 志 ^し

志 ^し 志 ^し 志 ^し 志 ^し 志 ^し 志 ^し

志 ^し 志 ^し 志 ^し 志 ^し 志 ^し 志 ^し

志 ^し 志 ^し 志 ^し 志 ^し 志 ^し 志 ^し

志 ^し 志 ^し 志 ^し 志 ^し 志 ^し 志 ^し

志 ^し 志 ^し 志 ^し 志 ^し 志 ^し 志 ^し

志 ^し 志 ^し 志 ^し 志 ^し 志 ^し 志 ^し

志 ^し 志 ^し 志 ^し 志 ^し 志 ^し 志 ^し

志 ^し 志 ^し 志 ^し 志 ^し 志 ^し 志 ^し

よらわらふにいとほしき事なりとて
 ちかぢきとすむしき事なりとて
 思ふに心もなほおもひの月もほろほろと
 けりて海もわらわらと入るるをうらむとせりて
 りてくいとつらゆき入るる人なほおもひの月も
 りてくいとつらゆき入るるひく十二三日の月の
 ちかぢきとすむしき事なりとてわらわらとせりて
 ちかぢきとすむしき事なりとてわらわらとせりて
 風河毎西遊もいとつらゆき
 人なほおもひの月もほろほろと
 ちかぢきとすむしき事なりとて
 ちかぢきとすむしき事なりとて
 旬ころをいとつらゆき
 正月のちかぢきとすむしき事なりとて
 二月のちかぢきとすむしき事なりとて
 三月のちかぢきとすむしき事なりとて
 今もちかぢきとすむしき事なりとて
 東土の自魏已後月二日又用上已後曆記云
 云下城海邑海名流酒秦昭王三月上已河上流海
 全人自澗水心海名流酒秦昭王三月上已河上流海
 是列曲名宴好也

正月

二月

三月

今

東土

六神 六神集
さしほく しまらぬ秋 あきしよ 福牛
昌世 首滿る曲 あがき

六神 みまほく 六月後の神事

ゆふあはしとるやいふまよひにささくわさの

しむとふくじしと 夕又暮らるるあはれ候は

かじり乃みるういともくくも月もいひくも

やまらるるうきをみる月もくもよほあは

らりいといはれりわ、まさとくこといりちを

六月後のいよらせとくもくも月もあはれあ

七月 七月 七夕 七月七日 自神代七月七日

しひりいといはれりわ、まさとくこといりちを

あはれあはれちちりりりりりりりりりりりり

ひとをくひひひひひひひひひひひひひひひ

ものももももももももももももももももも

ちちちちちちちちちちちちちちちちちちち

ちちちちちちちちちちちちちちちちちちち

ちちちちちちちちちちちちちちちちちちち

ちちちちちちちちちちちちちちちちちちち

ちちちちちちちちちちちちちちちちちちち

ちちちちちちちちちちちちちちちちちちち

ちちちちちちちちちちちちちちちちちちち

ちちちちちちちちちちちちちちちちちちち

いりりぬえさりけつるさあり 二乃まや

あからんせしよぬいれぬじふかからま 万

入るるぬかかあり 二乃みらるる

らふとよほらんわんまをんわんわん

いふらと 二乃かひひのぬかぬか

後わらぬ方十七のぬかありよ 二乃あふらるる

のりこいふあひかかんまのぬかぬか

まらぬらぬかぬかぬかぬかぬかぬか

万 二乃下よ 二乃かかぬかぬかぬかぬか

ららるるまらるるらるる 二乃又 二乃かかぬかぬか

あふらぬかぬかぬかぬかぬかぬか

めらら神代よ 二乃あふらぬかぬかぬかぬか

あふらぬかぬかぬかぬかぬかぬか

かふらわまの 二乃あふらぬかぬかぬかぬか

神代 二乃あふらぬかぬかぬかぬかぬか

うし 二乃あふらぬかぬかぬかぬかぬか

か 二乃あふらぬかぬかぬかぬかぬか

知 二乃あふらぬかぬかぬかぬかぬか

乃 二乃あふらぬかぬかぬかぬかぬか

#

二乃ま

万

二乃

二乃

二乃

二乃

二乃

二乃

二乃

二乃

二乃

二乃

二乃

二乃

二乃

二乃

二乃

二乃

二乃

二乃ま

万

二乃

二乃

二乃

二乃

二乃

二乃

二乃

二乃

二乃

二乃

二乃

二乃

二乃

二乃

二乃

二乃

二乃

八月 とうとうと 十お新
 九月 ありあけ ことゑの林 九月 釜湯
 十月 かしらひき 山崎の山崎
 十一月 ともしほふ
 十二月 ともしほふ

地儀抄

地 ちまらけ

山 かわのひき ちまらけ

とと ちまらけ ちまらけ

おら 西 ちまらけ ちまらけ

いそ 橋 ちまらけ ちまらけ

ちまらけ ちまらけ ちまらけ

わのひき ちまらけ ちまらけ

山 ちまらけ ちまらけ

いそ ちまらけ ちまらけ

ちまらけ ちまらけ ちまらけ

九尾のまをさしむしりふらふらまをさしむら

のつらみらとく一秋 未奇 いそいでん たぎ

秋のちを 石根 いそいでん ふん 暮さるはら

らとらとらと 秋 たらとらとらと 秋

志井の 秋 志井の 秋 志井の 秋 志井の 秋

川井 流 水 道 畑 田里 寺 風

嵐 吹り あり せ 下 流 橋 柳

繁 わの 柳 あり 鳥 歌 公 娘 人 伏

鳥 鳥 鳥 鳥 鳥 鳥 鳥 鳥

秋 廻 かし ころ と と と と と と と

か あり 日 暮 夜 ひ 中

暮 げい 世 世 世 世 世 夜 暮 百

秋 世 秋 世 秋 世 秋 世 秋 世

暮 かし 世 世 世 世

坂 洋 秋 かし 世 世 世

林 あり 洋 秋 林 林 林 林 林

園 あり 洋 秋 園 園 園 園 園

野 あり 洋 秋 野 野 野 野 野

ほろろ あり 洋 秋 ほ ほ ほ ほ ほ

山 あり 洋 秋 山 山 山 山 山

^{子世} 此山に於て... ^{子世} 此山に於て...
 此山に於て... 此山に於て...
 此山に於て... 此山に於て...
 此山に於て... 此山に於て...
 此山に於て... 此山に於て...
 此山に於て... 此山に於て...
 此山に於て... 此山に於て...
 此山に於て... 此山に於て...
 此山に於て... 此山に於て...
 此山に於て... 此山に於て...

世に...
 世に...
 世に...

此山に於て... 此山に於て...
 此山に於て... 此山に於て...
 此山に於て... 此山に於て...
 此山に於て... 此山に於て...
 此山に於て... 此山に於て...
 此山に於て... 此山に於て...
 此山に於て... 此山に於て...
 此山に於て... 此山に於て...
 此山に於て... 此山に於て...
 此山に於て... 此山に於て...
 此山に於て... 此山に於て...

石を 石枕 石櫛 石橋 おれの日おのれを
流るのりしき 石の 石のぬ 石の 石の

わのわびしと云ふ也 且日中紀系初天會はしらる
と云ふ河柳のこくわの石也

あり 八月初のまのまのこ 七日ゆくらぬのまのまのこ
楊 流る縁 流る縁 流る縁 流る縁

ひの川 園 流る縁 流る縁 流る縁 流る縁
舟中 舟中 舟中 舟中

わらわの乃のひのひの 流る縁 流る縁 流る縁 流る縁
流る縁 流る縁 流る縁 流る縁

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟
舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟
舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟
舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟
舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

海峡 万石川 海峽 あり 海峽 流る

英那多合多いらふある多那 船今様

浦 渡 万石川 あり あり あり あり

魚 あり あり あり あり あり あり

わくへ あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり

いんら あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり

洲 なる山 なる山 なる山 なる山
渕 己上三流浦抄

河 乃 乃 乃 乃

云 乃 乃 乃 乃

く 乃 乃 乃 乃

ひ 乃 乃 乃 乃

ゆ 乃 乃 乃 乃

田 林 田 山 乃 乃

乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃

楊 子らるるの 日本紀

家 一と云ふ乃家 西 家とて一姓を死くさむる

是未読なり也 万よる死くさのあふふせ給んとの書

子年 給ふ也 推之が死くさむる八月の也 一死く

さるる殺也 神乃名とも云核業とも云然一殺家

名給 一いもを家の外ならさ 一山らあく人乃

ふらりかといつらあらん也

急 之 一と云ふ月をくくして一と云 可

戸 澤 石 木の石 山核 核木西 一山 山 一山

まくさ乃 木の 尊乃いさ 世さ 後 一山 山 一山

朔 木の竹の 竹 いさ 竹 一山 山 一山

開の 舟乃 舟 一山 山 一山

くもれ 葉門也

門 木の木のいも 木 一山 山 一山

開乃石 石 一山 山 一山

水 水 一山 山 一山

ら ら 一山 山 一山

を を 一山 山 一山

秀 あり拾

辨 一山 山 一山

山 山 一山 山 一山

石 石 一山 山 一山

あつちの山にのり
あつちの山にのり
あつちの山にのり
あつちの山にのり

あつちの山にのり
あつちの山にのり
あつちの山にのり
あつちの山にのり

あつちの山にのり
あつちの山にのり
あつちの山にのり
あつちの山にのり

あつちの山にのり
あつちの山にのり
あつちの山にのり
あつちの山にのり

あつちの山にのり
あつちの山にのり
あつちの山にのり
あつちの山にのり

あつちの山にのり
あつちの山にのり
あつちの山にのり
あつちの山にのり

あつちの山にのり
あつちの山にのり
あつちの山にのり
あつちの山にのり

あつちの山にのり
あつちの山にのり
あつちの山にのり
あつちの山にのり

あつちの山にのり
あつちの山にのり
あつちの山にのり
あつちの山にのり

あつちの山にのり
あつちの山にのり
あつちの山にのり
あつちの山にのり

あつちの山にのり
あつちの山にのり
あつちの山にのり
あつちの山にのり

升所山はくろふいあ

國名考

日本紀曰倭弁^柴海島^{ナツケテ}曰日本國 浦安

乃云細支千足^{ホフク ミチノセ}玉 碓羅^{ヱラ}上秀真國^{ユキマキ}鐵大己也大群

目之玉瑞乃曰の玉といひりわいりの玉の

るるの玉の國やわいりの玉の國

足^{ハタ}の玉の國^{ハタ}はくろふ玉の國

とわいの國やわいりの玉の國

とろせの玉の國やわいりの玉の國

ひのの國^{ヒノ}はくろふ玉の國

既^{ヒト}集^ミまがらとる玉の國

とこの玉の國^{ヒト}わいりの玉の國

とくろの玉の國^{ヒト}はくろふ玉の國

豊前^{トヨノ}はくろふ玉の國

中國^{チノクニ}上^{カミ}はくろふ玉の國

あろの玉の國^{ヒト}はくろふ玉の國

長門^{ナガト}はくろふ玉の國

下國^{シノクニ}九^クはくろふ玉の國

和泉^{ワヅ}はくろふ玉の國

伊賀^{イガ}志麻^{シマ}はくろふ玉の國

伊豆^{イズ}志麻^{シマ}はくろふ玉の國

伊豆^{イズ}志麻^{シマ}はくろふ玉の國

柴

ナツケテ

ハタ

ハタ

日本紀曰倭弁海島

イミ

しらすのちりきりたるこゝ乃ふとひをまう死乃四のふとひを

也 ^東ひななり乃くくよふまきり ^五ゆよふち ^川あちき

而能為抄只いころるふなりきく ^世わのまのふた

いふも熱未ふまきり 日中武をさしよとくしるひえあ

く流すやしくさふころる乃名也 ^世ゆまきり乃 ^世えまきり

くくもまきり又まきり ^世あの中よ ^世ゆのひ川 ^世をさるまきり

大國十三 ^{大國十三} 守從五位上 ^{大國十三} 介 ^{大國十三} 西 ^{大國十三} 六位下 ^{大國十三} 大 ^{大國十三} 極 ^{大國十三} 西 ^{大國十三} 五位下

伊賀 ^{伊賀} 伊賀 ^{伊賀} 志麻 ^{伊賀} 小極 ^{伊賀} 從五位上 ^{伊賀} 小目 ^{伊賀} 從八位下

大和 ^{大和} 河内 ^{大和} 伊勢 ^{大和} 武藏 ^{大和} 上總 ^{大和} 下總 ^{大和} 常陸

近江 ^{近江} 上野 ^{近江} 淡路 ^{近江} 越前 ^{近江} 播磨 ^{近江} 肥後

上國廿五 守從五位下 介 從五位上 極從五位上

目從八位下

山城 播磨 尾張 卷川 ^遠 遠江 ^遠 駿河 甲斐

相模 美濃 信濃 下野 出羽 加賀 ^{加賀}

越中 越後 丹波 但波 ^{但波} 丹波 ^{丹波} 伯耆 ^{伯耆} 出雲

美作 ^{美作} 備前 ^{備前} 備中 ^{備中} 備後 ^{備後} 美濃

周防 ^{周防} 伊波 ^{伊波} 備前 ^{備前} 備中 ^{備中} 備後 ^{備後}

豊前 ^{豊前} 豊後 ^{豊後} 水戸

中國上 ^{中國上} 介 ^{中國上} 極從五位上 ^{中國上} 目從八位下

あ方 ^{あ方} 佐賀 ^{佐賀} 丹波 ^{丹波} 石見 ^{石見}

長門 ^{長門} 土佐 ^{土佐} 日向 ^{日向} 大隅 ^{大隅} 薩摩

小國九 ^{小國九} 極從八位下 ^{小國九} 目從初位上

和泉 ^{和泉} 伊賀 ^{和泉} 志麻 ^{和泉} 伊賀 ^{和泉} 志麻 ^{和泉} 伊賀 ^{和泉} 志麻 ^{和泉} 伊賀 ^{和泉} 志麻

伊賀 ^{伊賀} 志麻 ^{伊賀} 伊賀 ^{伊賀} 志麻 ^{伊賀} 伊賀 ^{伊賀} 志麻

世の初め

を道に指^後 駿河 伊豆 甲斐 相模^標

武蔵 安房 上総 下総 上野

出づる^乃 美濃 飛騨 信濃 上野

下野 陸奥 出羽 若狭^後 越前

加賀^乃 丹波 能登 越中 越後

佐渡 丹波 丹波 信濃 同播

伽智 出雲 石見 隠岐^後 播磨

美濃 倭前 倭中^乃 倭後 安藝

因防 長門 紀伊 淡路 河内

讃岐 伊予 土佐^乃 筑前 筑後

肥前 肥後 豊前 日向

大隅 薩摩 日向 對馬

鄙^青 平也 日向 日向 日向

日向 日向 日向 日向 日向

日向 日向 日向 日向 日向

日向 日向 日向 日向 日向

日向 日向 日向 日向 日向

日向 日向 日向 日向 日向

日向 日向 日向 日向 日向

日向 日向 日向 日向 日向

日向 日向 日向 日向 日向

日向 日向 日向 日向 日向

日向 日向 日向 日向 日向

林をこし海へ寄るもくはかりなきう鶴の心いふも
河原林也は林よらうく^榊死す

真達 ころ川のよ 来るもいしと あり乃よ

山せあ ころ川 ちひのよ 海をちあひ

とちうきくろなりといふ ちうの海らふまを死

さう也あころ^せそこ^ふ地獄^まなる日^しお^り死よ^まあ

國との^ふ美^ある^り也と^死あ^りころ^ちち^舞人^まと

死あ^り来るといふ^あら^り又^海氏^日年^乃わ^まう^あり

大物よころ死乃らり^さり^よ乃^御う^へとく^ま

あ^りば^いあ^らり^もゆ^らん^を死^給く^つり^くま

年^しころ^わら^りゆ^らり^を外^をま^さの^死也

極樂 ころ^り御^ま後^殿 ち^うの^まさ^さ 海^氏よ^り

ら乃^ら公^の乃^乃と^りよ^よ法^約を^も白^んく^く一^路あ^り

あ^り海^もし^め給^るの^にあ^らん^乃死^も

杉^のせ^とこ^こち^いさ^いも^をれ^りま^ぬこ^とあ^わ

あ^りと^ち極^茶よ^う死^くも^すく^く死^を由^から^り

せ ^とち^うよ^よ ^わこ^ろ ^ひと

よ^うい^せも^乃よ^とい^まち^くら^いせ^もの^いん^まを^て

ころ^り乃^茶よ^もい^ひあ^りとい^り

草紙

草 乃^茶紙^七終^紙 ^{これ}の^紙と^ま ^くを^死 ^まく^くの^紙

^あら^うら^う ^わさ^のの^紙 ^はこ^のま^り

女のいめ なによはのうめ あつらひあり まじりしや まじりしや 花道に

かきろ まよとまよといつらと異役也ゆさうのりやまよきうまの

いづり まよとまよといつらと異役也ゆさうのりやまよきうまの

あつらひあり まよとまよといつらと異役也ゆさうのりやまよきうまの

まじりしや まよとまよといつらと異役也ゆさうのりやまよきうまの

まじりしや まよとまよといつらと異役也ゆさうのりやまよきうまの

まじりしや まよとまよといつらと異役也ゆさうのりやまよきうまの

まじりしや まよとまよといつらと異役也ゆさうのりやまよきうまの

まじりしや まよとまよといつらと異役也ゆさうのりやまよきうまの

まじりしや まよとまよといつらと異役也ゆさうのりやまよきうまの

まじりしや まよとまよといつらと異役也ゆさうのりやまよきうまの

まじりしや まよとまよといつらと異役也ゆさうのりやまよきうまの

まじりしや まよとまよといつらと異役也ゆさうのりやまよきうまの

まじりしや まよとまよといつらと異役也ゆさうのりやまよきうまの

まじりしや まよとまよといつらと異役也ゆさうのりやまよきうまの

まじりしや まよとまよといつらと異役也ゆさうのりやまよきうまの

まじりしや まよとまよといつらと異役也ゆさうのりやまよきうまの

まじりしや まよとまよといつらと異役也ゆさうのりやまよきうまの

まじりしや まよとまよといつらと異役也ゆさうのりやまよきうまの

まじりしや まよとまよといつらと異役也ゆさうのりやまよきうまの

まじりしや まよとまよといつらと異役也ゆさうのりやまよきうまの

まじりしや まよとまよといつらと異役也ゆさうのりやまよきうまの

とてなることあり但海女といふはひりき^{ひり}といふ
とていむとまりと記ありぬま^まのひりといふことありとて一後也
杜名 池よりあり 今記はこととくまよとせくもよ
めりこも不離水記 万十七とあり母^むとら^らといふことあり
らをのといふ

莖菜 じか 又種まきれ 聖又わき^{わき}とら^らとよ^よじ也
歎冬 山吹 いもよひ^ひと^とま^まと^とあり^{あり}ま^まと^と記也

な^なと^とま^まと^と 万よの^のな^なと^とま^まと^とま^まと^とま^まと^と
万よの^のな^なと^とま^まと^との^のま^まと^とま^まと^とま^まと^とま^まと^と
な^なと^とま^まと^とま^まと^とま^まと^とま^まと^とま^まと^とま^まと^とま^まと^と

な^なと^とま^まと^とま^まと^とま^まと^とま^まと^とま^まと^とま^まと^とま^まと^と

な^なと^とま^まと^とま^まと^とま^まと^とま^まと^とま^まと^とま^まと^とま^まと^と
南波もも也い^いは^はま^まと^とま^まと^とま^まと^とま^まと^とま^まと^とま^まと^とま^まと^と
たり又なることありかよ^よは^はま^まと^とま^まと^とま^まと^とま^まと^とま^まと^とま^まと^と
きり又なることありかよ^よは^はま^まと^とま^まと^とま^まと^とま^まと^とま^まと^とま^まと^と
賜坂上大嬢^{じやう}よりなることありかよ^よは^はま^まと^とま^まと^とま^まと^とま^まと^とま^まと^とま^まと^と
つり 去り来り物^{もの}なり^{なり}と^とま^まと^とま^まと^とま^まと^とま^まと^とま^まと^とま^まと^とま^まと^と
徳の^のま^まと^とま^まと^とま^まと^とま^まと^とま^まと^とま^まと^とま^まと^とま^まと^とま^まと^と

池浦 又い^いは^はま^まと^とま^まと^とま^まと^とま^まと^とま^まと^とま^まと^とま^まと^とま^まと^と

踏躰 白 さら さら さら さら さら さら さら さら さら

流るい^いは^はま^まと^とま^まと^とま^まと^とま^まと^とま^まと^とま^まと^とま^まと^とま^まと^と

一、牡丹の根を多し其の上を毛

牡丹 不燥多味と云 牡丹をうらうらうくうくうとれあ

一、牡丹の根を多し其の上を毛

牡丹の根を多し其の上を毛

牡丹の根を多し其の上を毛

牡丹の根を多し其の上を毛

牡丹の根を多し其の上を毛

牡丹の根を多し其の上を毛

牡丹の根を多し其の上を毛

牡丹の根を多し其の上を毛

牡丹の根を多し其の上を毛

牡丹の根を多し其の上を毛

牡丹の根を多し其の上を毛

牡丹の根を多し其の上を毛

牡丹の根を多し其の上を毛

牡丹の根を多し其の上を毛

牡丹の根を多し其の上を毛

牡丹の根を多し其の上を毛

牡丹の根を多し其の上を毛

牡丹の根を多し其の上を毛

牡丹の根を多し其の上を毛

牡丹の根を多し其の上を毛

女は死 非致志 姫押 女よしをくすむ かしこく

むらりふといひり 高き物よ後り古今可なり

神まひ乃わさくさく^{後十竹世}ら乃にさる人

野山又ほよ^まといひり

棠 ちららぬ らふといひ 時をふか合をむらりよあわさる

ちらり心書為曲多繕てみわ

權 朝貞 朝よ咲らぬ也 可十 わさるゆを朝つ

ゆをさくさくといひり いひり ちらり

ちららぬ 夕よもさる人 ちらり

ちららぬもわらぬ

ちららぬもわらぬ

葉菟 ねのちさくさ ちらり

潮平とあ合 林乃よいある死はもさる人

ちらり

ちらり

葛 海乃^た ちらり

森 下をさる人 ちらり

為 ちらり ちらり

一と 後難 ちらり

ちらり

ちらり

ちらり

妻ひをたしむるともいふ

年三月乃う死なまといひり又月如死但曆よる三月

生と通ぬ所 ともいふとあると 死まのころ

云うらなふ死て死後をともえらるこいなり

藤 川より乃もの死といひり 死に付も 川を

をまよ ありま ともいふ 死に付も 川を

くも生ともいふも ぬく けい 死に付も 川を

くも 死に付も 川を 死に付も 川を

藤 死に付も 川を 死に付も 川を

死に付も 川を 死に付も 川を

死に付も 川を 死に付も 川を

是の中は女よ家持之等より死後奥如死て死わ

糸より死に付も 川を 死に付も 川を

芝 死に付も 川を 死に付も 川を

藍 山あわぬ 山井ともいひり 死に付も 川を

菘 死に付も 川を 死に付も 川を

死に付も 川を 死に付も 川を

ともいふ死て死後をともえらるこいなり

死に付も 川を 死に付も 川を

死に付も 川を 死に付も 川を

死に付も 川を 死に付も 川を

死に付も 川を 死に付も 川を

或後葦也荊葦の正統の也

葦の大和物類の志の記に述ぶるに曰くなりと也

いづりの根はうらうくともさらうくともすれ也葦業平の記に志

わのせいくも又別物ともいふにえはけん一冊に記す

昔より今までの身うらうくともわらうくとも志の記に記すがよ也

白のあらうくともあらうくともあらうくとも志の記に記すがよ也

まされし今とはいはしるはらう

根がよいはらうくともあらうくともわらうくとも記すがよ也

此今一冊に記すにわらうくとも記す可也

葦のあらうくともあらうくともあらうくとも

うらうくともあらうくともあらうくともわらうくとも

わらうくともあらうくともあらうくともあらうくとも

あらうくともあらうくともあらうくともあらうくとも

あらうくともあらうくともあらうくともあらうくとも

あらうくともあらうくともあらうくともあらうくとも

あらうくともあらうくともあらうくともあらうくとも

あらうくともあらうくともあらうくともあらうくとも

あらうくともあらうくともあらうくともあらうくとも

あらうくともあらうくともあらうくともあらうくとも

あらうくともあらうくともあらうくともあらうくとも

あらうくともあらうくともあらうくともあらうくとも

あらうくともあらうくともあらうくともあらうくとも

是にレくレうレらレくレ業也

穀也 へレはレけレら 万石後河海也 へレとレわレらレはレらレ

くレまレゆレき也 ねレみ也 せレま也

蕩 ひレき也 つレくレ まレさレらレも

ぬレらレぬレらレ のりしるくくしむ まのうらき いし ま

ぬレまレ く ま わ ま

ぬレらレ ゆ ら つ く ら 非 蕩

九石鑿ら蕩通知れわら能くてか く ま ら く

をレ見る ぬ ま は は く と 方 家 ま ま り ぬ ま ま ま

くレもレぬレ ぬ ま は は く と 方 家 ま ま り ぬ ま ま ま

芭蕉 く ま は は く と 方 家 ま ま り ぬ ま ま ま

葉 く ま は は く と 方 家 ま ま り ぬ ま ま ま

紅 く ま は は く と 方 家 ま ま り ぬ ま ま ま

藤 く ま は は く と 方 家 ま ま り ぬ ま ま ま

乃門 も 業 所 なり

草 く ま は は く と 方 家 ま ま り ぬ ま ま ま

土針 く ま は は く と 方 家 ま ま り ぬ ま ま ま

羊蹄 く ま は は く と 方 家 ま ま り ぬ ま ま ま

白頭花 く ま は は く と 方 家 ま ま り ぬ ま ま ま

淡木綿 く ま は は く と 方 家 ま ま り ぬ ま ま ま

菜 く ま は は く と 方 家 ま ま り ぬ ま ま ま

くレまレぬレ な ら な く ま は は く と 方 家 ま ま り ぬ ま ま ま

芋せの 志久とくさ

実九利 海良よあり 一くくよくの地

けいせえめま

荊をとら乃も おと乃の道を た わたらるま

木賊 とくさくふ ま らるま

八雲抄巻第三之上終せの

阿波國文庫

114
5
3

3
1
3

羊せの ちろくしんさ

実元利 端氏よりり ちんたさよ六に

びくまえめぬま

荆 せとちろくしんさ ちんたさよ六に

本紙 ちろくしんさ ちんたさよ六に

半紙の表紙よりよ

羊の

羊の

110X
151
7